



## 2. 伊勢原市の緑の現況と特性

## 2. 伊勢原市の緑の現況と特性

### 2.1 伊勢原市の緑の現況

#### (1) 伊勢原市の緑の現況量

##### ① 市域全体（都市計画区域）における緑の現況

伊勢原市の緑地面積を施設緑地及び地域制緑地で整理すると、表 2.1.1 に示すようになります。しかし、表には含まれていませんが現況の緑としては、このほかに民有林等が多く存在し、緑の総面積は約 2,929 ha となっています。これは市域面積の約 52.7%にあたります。このうち約 3%は施設緑地（都市公園や公共施設緑地、民間施設緑地）で、残りの約 97%は地域制緑地等（保安林区域や農用地区域、民有林など）となっています。

##### ② 市街化区域における緑の現況

市街化区域の緑地面積は、おおむね表 2.1.1 に示すように約 81.6ha となっています。これは市街化区域面積の約 7.2%にあたります。このうち、約 44%は施設緑地（都市公園や公共施設緑地、民間施設緑地）で、残りの約 56%は地域制緑地（生産緑地など）となっています。

表 2.1.1 緑の現況量（平成 18 年度）

	市街化区域			都市計画区域		
	箇所数	面積(ha)	m <sup>2</sup> /人	箇所数	面積(ha)	m <sup>2</sup> /人
<b>施設緑地 合計</b>	<b>203</b>	<b>36.07</b>	<b>4.39</b>	<b>316</b>	<b>86.44</b>	<b>8.64</b>
都市公園等	154	27.37	3.33	187	56.54	5.65
都市公園	118	15.97	1.94	134	33.94	3.39
基幹公園	118	15.97	1.94	134	33.94	3.39
住区基幹						
街区公園	115	11.90	1.45	127	12.16	1.21
近隣公園	3	4.07	0.49	6	8.91	0.89
都市基幹				1	12.87	1.28
運動公園						
県立公園（市民緑地）						
公共施設緑地	36	11.40	1.39	53	22.60	2.26
民間施設緑地	49	8.70	1.06	129	29.90	2.99
<b>地域制緑地 合計</b>	<b>—</b>	<b>45.60</b>	<b>5.56</b>	<b>—</b>	<b>2,210.40</b>	<b>221.04</b>
法によるもの	—	33.70	4.10	—	3,589.00	358.90
生産緑地地区	—	24.60	3.00	—	24.60	2.46
自然公園	—			—	1,410.00	141.00
河川区域	—	9.10	1.10	—	21.40	2.14
農用地区域	—			—	709.00	70.90
保安林区域	—			—	1,424.00	142.40
条例等によるもの	—	11.90	1.45	—	85.30	8.53
地域制緑地間の重複	—			—	△1,463.90	—
<b>緑地総計</b>	<b>—</b>	<b>81.67</b>	<b>9.95</b>	<b>—</b>	<b>2,296.84</b>	<b>229.68</b>
人口 (千人)	市街化区域人口			82 千人		
	都市計画区域人口			100 千人		
面積 (ha)	市街化区域面積			1,137 ha		
	都市計画区域面積			5,552 ha		
緑被率 (%)	市街化区域			7.2 %		
	都市計画区域			41.4 %		
市民一人当たり都市公園の面積 (m <sup>2</sup> /人)	市街化区域			1.9 m <sup>2</sup> /人		
	都市計画区域			3.4 m <sup>2</sup> /人		

※人口は、平成 18 年度末現在の住民基本台帳に基づきます。なお、市街化区域人口は、市街化区域に係る地区人口の合計による想定人口です。

※箇所数・面積は、平成 18 年度末現在のものです。

## (2) 質別に見た緑の現況

### ① 都市公園等の緑

#### ■ 着実に増加してきた都市公園

都市公園面積は、土地区画整理事業等による街区公園の整備や伊勢原市総合運動公園の整備により、近年大きく増加しているが、昨今では用地の取得が難しく、整備量が伸び悩む傾向にあります。

表 2.1.2 都市公園面積の推移

		平成 7 年	平成 12 年	平成 18 年
都市公園面積 (ha)	市街化区域	14.1	14.4	16.0
	都市計画区域	32.0	32.3	34.0

#### ■ 市民 1 人当たり 3.4m<sup>2</sup>

現在、伊勢原市では 134 箇所、約 34.0ha の都市公園が整備されており、市民 1 人当たり 3.4m<sup>2</sup>、市街化区域内では 1.9m<sup>2</sup>となっています。

主な公園としては伊勢原市総合運動公園、鈴川公園、市ノ坪公園、城ノ腰公園、千津ふれあい公園、市民の森ふじやま公園等があります。

表 2.1.3 都市公園の整備量（平成 18 年度）

種別		市街化区域			都市計画区域			
		箇所数	面積 (ha)	m <sup>2</sup> /人	箇所数	面積 (ha)	m <sup>2</sup> /人	平均面積 (ha)
住区基幹公園	街区公園	115	11.9	1.4	127	12.2	1.2	0.10
	近隣公園	3	4.1	0.5	6	8.9	0.9	1.50
都市基幹公園	総合運動公園	0	0.0	0.0	1	12.9	1.3	12.9
計		118	16.0	1.9	134	34.0	3.4	—

#### ■ 小規模で種別に偏りのある住区基幹公園

住区基幹公園は「身近な公園」として住民の日常的かつ身近な利用に供する公園で、街区公園、近隣公園、地区公園の種別があります。

伊勢原市には、街区公園と近隣公園を合わせて 133 箇所、21.1ha が整備されています。しかしながら、多くの街区公園は小規模であることから、十分に機能を発揮できず、また地域の中心となる近隣公園は極端に不足しています。

### ② 河川等の緑

伊勢原市は、歌川と渋田川、鈴川、善波川、板戸川、栗原川、日向川などの河川があります。

### ③ 道路の緑

現在の伊勢原市における街路樹の整備状況は、総延長で 34.6km です。10年前の状況と比較すると、着実に街路樹整備が進んでいます。

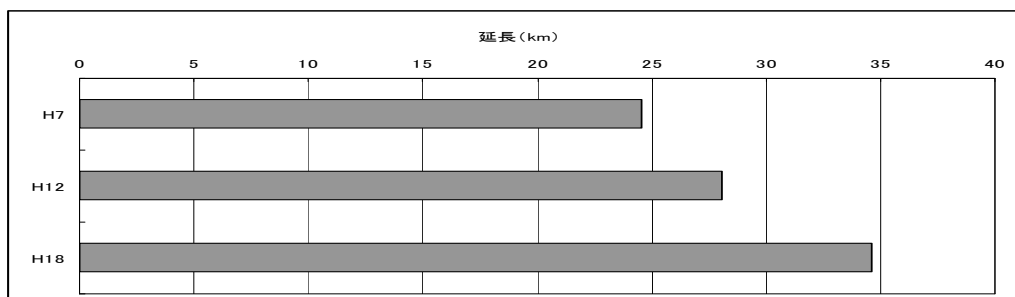


図 2.1.4 街路樹延長の推移

### ④ 樹林地・農地の緑

樹林地は、自然公園や保安林等に指定され、緑の保全が図られています。また、農地は、農用地区域や生産緑地等に指定され、緑の保全が図られています。

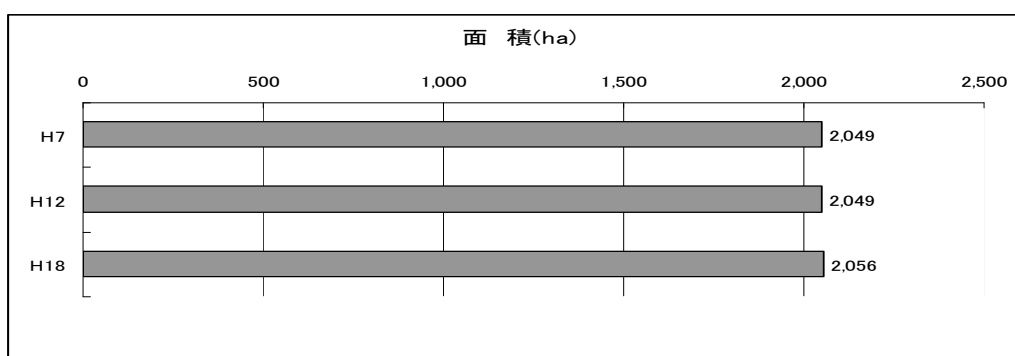


図 2.1.5 樹林地面積の推移「平成 18 年版 統計いせはら」

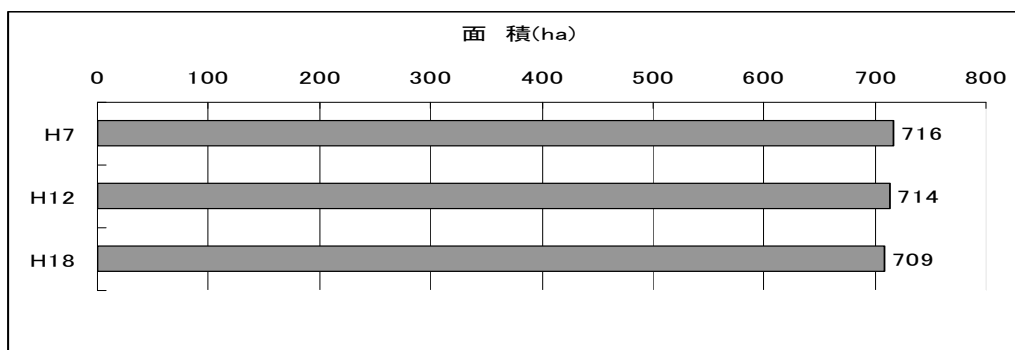


図 2.1.6 農地面積の推移「平成 18 年版 統計いせはら」

## 2.2 伊勢原市の緑の特性

### (1) 緑の構成上の特性

#### ① 「やま」の緑、「おか」の緑、「まち」の緑、「さと」の緑から成る伊勢原市の緑

伊勢原市の緑は、大山・日向（やま）の豊かな緑と市街地を挟むように畑や果樹園から成る丘陵地（おか）の緑と水田からなる低地部（さと）の緑が広がります。そして、市街地（まち）では量的に少ないものの、社寺境内地や台地外縁の斜面緑地等の緑が残されています。

このように伊勢原市の緑は「やま」の緑、「おか」の緑、「まち」の緑、「さと」の緑の4つのゾーンから成り、また混在化することなく、比較的明確に面的な広がりをもって、西から東へ帯状に移行していることが特徴的です。

- ・ 概ね国道246号バイパス（厚木秦野道路）より山側の範囲で、大山や日向などの山の緑が主体となる「やま」ゾーン
- ・ 概ね国道246号バイパス（厚木秦野道路）と東名高速道路の間の範囲で、農地や樹林地の緑が調和する丘陵地の「おか」ゾーン
- ・ 小田原厚木道路と東名高速道路に挟まれた範囲で、市街地の「まち」ゾーン
- ・ 概ね小田原厚木道路の南東側となる範囲で、農地が広く分布する平坦地の「さと」ゾーンの4つのゾーンに大別されます。
- ・ また、それぞれのゾーンは、歌川・渋田川と鈴川の2つの河川軸（水辺空間）により強く結ばれています。

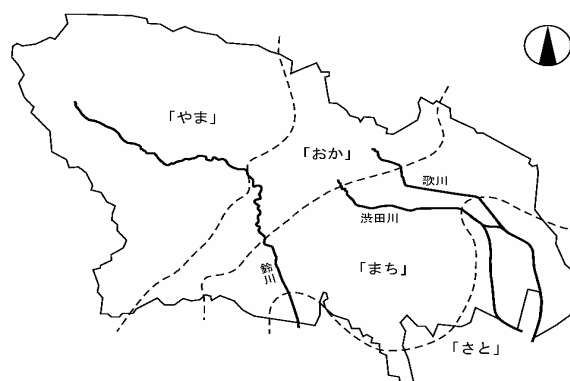


図2.2.1 ゾーン区分図

「やま」ゾーン	概ね国道246号バイパス（厚木秦野道路）の山側となる地域。
「おか」ゾーン	概ね東名高速道路と国道246号バイパス（厚木秦野道路）の間となる地域。
「まち」ゾーン	概ね小田原厚木道路と東名高速道路の間となる地域。
「さと」ゾーン	概ね小田原厚木道路の南東側となる地域。
河川軸	歌川・渋田川と鈴川の2つの河川軸

## ② 河川軸が形成する緑のベルト（「歌川・渋田川」ベルト・「鈴川」ベルト）

伊勢原市には、歌川と渋田川、鈴川、善波川、板戸川、栗原川、日向川などの河川があり、日向川はアウトドアレクリエーションの場として市民に親しまれ、また渋田川の芝桜は住民の河川愛護活動により、特徴的な親水空間が形成されています。これらの河川は、大山・日向の緑と結ばれ伊勢原市の緑のネットワークを構成しています。

特に、4つのゾーンを結ぶ歌川・渋田川と鈴川の2つの河川軸の沿川地域には、あやめの里や市民の森ふじやま公園、伊勢原市総合運動公園、鈴川工業団地（鈴川公園・市ノ坪公園）などの施設系緑地を中心に、良好な農地や水路などの水辺、河川緑地が存在し、多様な緑が帯状に分布して「緑のベルト」を形成していることが特徴的です。

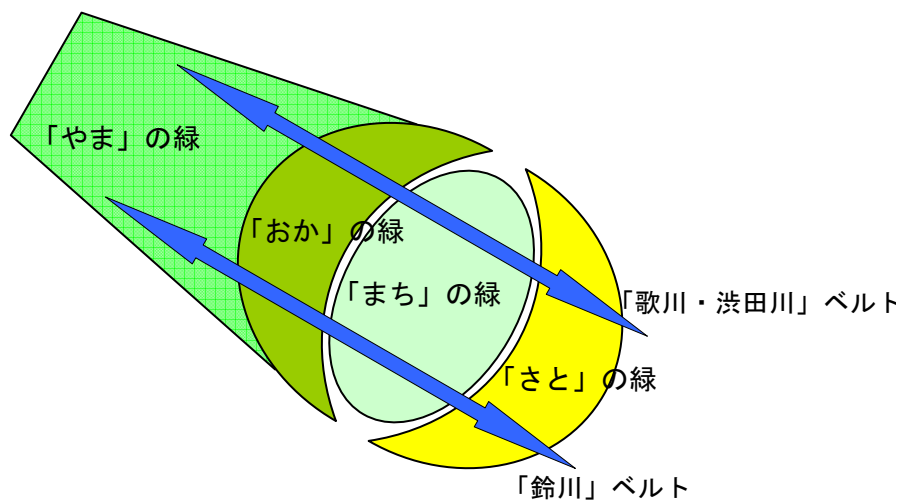


図 2.2.2 伊勢原市の緑の構成模式

### (2) 緑のゾーン別特性

#### ① 「やま」の緑

- 丹沢大山国定公園や県立丹沢大山自然公園などの自然の緑が豊富で、CO<sub>2</sub>の固定や大気中の浮遊物質の吸着、雨水の浸透保水等、気候や水循環をコントロールする都市環境保全のための根幹をなすものです。また、これらは県下において広域的な緑の拠点となっています。
- 大山及び日向観光などをはじめ、自然度の高い緑とのふれあいの場が豊富です（登山・ハイキング・キャンプ場）。
- 大山を中心とする山の緑は、水源かん養、山地災害や土砂による災害防止などの役割をなす緑となっています。
- 市のシンボルである大山を中心に、山並みが美しい伊勢原の背景の緑（心象風景）となっています。

## ② 「おか」の緑

- 樹林地や農地などが集落地と調和し、「やま」から連なる自然の緑を「まち」につないでいます。特に、日向から伊勢原市総合運動公園、市民の森ふじやま公園へと連なる丘陵地と、大山から県立いせはら塔の山緑地公園（事業中）へと連なる山並みは、その役割が顕著です。
- 身近な自然とのふれあいの場（里山環境、水路などの水辺）が豊富です。
- 伊勢原市総合運動公園や県立いせはら塔の山緑地公園（事業中）などの大規模公園が立地します。
- 自然の緑と集落地などの緑が調和する、緑豊かな景観となっています。

## ③ 「まち」の緑

- 市街化区域が大半を占め、伊勢原駅などを中心に高密な市街地が形成され、緑は極端に不足しています。
- 調整区域は、樹林地や農地が保全され、市街化区域とは性格を異にします。
- 市街化区域内における緑の減少が著しいが、「おか」や「さと」に連なる調整区域の緑が「まち」の緑被率を維持しています。
- 市街化区域では、残存する樹林地（境内林など）や生産緑地が、身近な自然の緑となっています。特に、伊勢原駅周辺の市街地を包むように残存する樹林地は、子どもたちの自然とのふれあいの場となるとともに、都市環境の保全や身近な生物の生息の場となっています。
- 市街化区域では、街路樹の緑、公園の緑、公共施設の緑などが主要な緑となり、また着実に増加してきています。
- 公園、スポーツ広場、小学校の校庭などがレクリエーションの場となっています。公園は、市街化区域内に広く分布していますが、個々の面積が狭いなど、十分に活用されていないものも見受けられます。

## ④ 「さと」の緑

- 広大な平坦地であり、田畑などの農地の緑が豊富です。
- 平坦地に広がる水田は遊水機能を有しています。
- 田園風景は、山の緑と対比するふるさと景観となっています。
- あやめの里や渋田川の芝桜など、四季の花木が香る水辺の緑が豊富です。
- 河川や農業用水路などは自然とのふれあいの場となっています。
- 農地内に散在する集落地では、生垣や境内林が主な緑となっています。

⑤ 「歌川・渋田川」ベルト

- 日向や伊勢原市総合運動公園、市民の森ふじやま公園、歌川・渋田川など、各ゾーンの主要な緑が位置しています。
- 丸山城址公園や成瀬第二特定土地区画整理事業、第二東名自動車道など、新規開発事業により新たな緑が創出されます。

⑥ 「鈴川」ベルト

- 鈴川では河畔林などが残り、緑の連続性が保たれています。
- 鈴川工業団地は「おか」ゾーンと「まち」ゾーンの緑の結節点となっています。
- 鈴川工業団地では協定により、団地内道路沿いで緑化が行なわれています。また、板戸川沿いの遊歩道や鈴川公園、市ノ坪公園などの緑が確保されています。
- 小田急線を挟んで南側に位置する伊勢原終末処理場については「まち」ゾーンと「さと」ゾーンの緑の結節点となっています。